

問題解決できる学生を育成する 図書館のあり方

第3グループ

日本女子大学	中村夏美
国立音楽大学	撰 正弘
山梨大学	佐藤和裕
朝日大学	山本祐子
関西大学	佃 彦志
甲南大学	堀越みち代

- ◆ 大学の責任である「学士力の保証」のため、学習支援施設である図書館にできることは何か

↓

問題解決できる学生を育てる

問題解決できる学生を育成する図書館のあり方

方

第3グループでは、下記のプロセス毎に目的を設定し、それぞれの目的実現のための手段を考察した。

構成員の育成



組織の進化



サポート

サービス



満足度向上

構成員の育成

目的

- ◆ 構成員の育成により図書館員自身が学士力を持つことで、学生に学士力とは何かという気づきを与える。

手段

- ・企業のプレゼン担当を招いて講習会を行う。論理的思考力
- ・学生に積極的に話しかける。コミュニケーションスキル
- ・マネジメント講習会を受講する。チームワークとリーダーシップ
- ・レファレンス事例集を読む。様々な知識の理解・問題解決力

組織の進化

目的

- ◆ 図書館の取り組みを積極的にアピールすることにより、カリキュラムへの情報活用プログラム導入を推進する。

手段

- ・他部局の集まりの際に、図書館員が出向いて広報する。
- ・学生の日程にあった図書館サービスの提供をする。

5

サポート

目的

- ◆ 学生に問題解決の手順を示すことで、学生の自主的な活動を促す。

手段

- ・問題解決型DB講習会を行う。
- ・教職員の推薦に基づいた図書の提示方法を工夫する。
- ・学生が図書館に関わって、何かを創造する機会をつくる。
- ・パスファインダーを作成する。(ホームページへの掲載)

6

サービス

目的

- ◆ 学生の図書館への期待に応える。

手段

- ・学生図書館委員を募集し、意見をもらう。(ニーズの発掘)
- ・各種統計を解析、評価し、サービスの見直しを行う。
- ・学生の資料利用につながるような展示を行う。
- ・HPを利用したり、学生課などの窓口に図書館利用案内を置くなどの広報を行う。

7

満足度向上

目的

- ◆ 授業に直結した図書館サービスにより、学生の問題解決能力を高める。

手段

教員・他部局との連携が必要！

- ・学生の学習テーマについての聞き取りを行う。
- ・学部のカリキュラムとの連携を深める。
- ・図書館内に授業毎のコーナーを設置する。
- ・体系的なガイダンスの実施
- ・ゼミのテーマに合わせたパスファインダーの作成

8

結論

これらの施策により学生は授業に直結した問題を自分で解決できるようになることが期待できる。さらには、自分で課題を設定し、情報を使い、解決できる能力、即ち学士力を身につけた学生を育成することができると思う。